

授 業 科 目 名	保育の心理学 I	教 員 名	野崎 秀正	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	TAI201	配当年次	2年前期		こども音楽療育士	選択
単 位 数	2単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の対象の理解に関する科目					
一 般 目 標	保育の心理学 I の授業では、子どもの発達に関する心理学的知見を習得し、それらを保育実践場面での援助に生かすための土台を形成することを目的とする。乳幼児期は、特に発達が著しい重要な時期である。乳幼児期の子どもの発達を学ぶことで子ども理解を深めるとともに、子どもの育ちと学びに寄り添いながら養護及び教育を一体的に行うための礎を築く。					
到 達 目 標	(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互の関わりや体験、環境の意義を理解する。					
授 業 の 概 要	保育の心理学の授業では、子どもの発達を理解することの意義を学んだ上で、子どもの発達と環境の関連性や代表的な発達理論について学ぶ。その後、保育実践に関わる子どもの発達過程（社会情動的発達、身体的機能と運動機能の発達、認知の発達、言語の発達等）を理解することで子ども理解を深めるとともに、乳幼児期の学びの過程と特性について理解することを通して、保育実践に生かす土台を形成する。 授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	特になし					
授 業 計 画	第1回：子どもの発達を理解することの意義、保育・教育実践に関連した心理学を学ぶことの意義について理解する。（目標1） 第2回：保育所保育指針等の内容を踏まえながら、子どもの発達の姿を捉える視点を身に付ける。（目標1） 第3回：子どもの発達と環境の関係性について、歴史的背景を踏まえて理解し、環境の重要性を学ぶ。【成熟優位説、環境優位説、輻輳説、対極説、環境閾値説等】（目標1） 第4回：代表的な発達理論について学ぶ①【ハヴィガーストの「発達課題」、エリクソンの「ライフサイクル論」、ヴィゴツキーの「発達の最近接領域論」等】（目標1） 第5回：代表的な発達理論について学ぶ②【ピアジェの「認知発達段階」、フロイトの「心理的発達段階」、コールバーグの「道徳性発達段階」等】（目標1） 第6回：代表的な発達理論をもとに、子ども観・保育観を見つめる（目標1） 第7回：子どもの発達過程を理解する①【社会情動的発達（対人関係の発達（愛着等）、情動の発達、社会性の発達等）】（目標2） 第8回：子どもの発達過程を理解する②【身体的機能と運動機能の発達（スキヤモンの発育曲線、発達の原理等）】（目標2）					

	<p>第9回：子どもの発達過程を理解する③【認知の発達（知覚の発達、記憶の発達、思考の発達（自己中心性・アニミズム等）】（目標2）</p> <p>第10回：子どもの発達過程を理解する④【言語の発達（喃語、初語、語彙爆発等）】（目標2）</p> <p>第11回：子どもの発達過程を理解する⑤【その他の発達（自我の芽生え、愛他性等）】（目標2）</p> <p>第12回：乳幼児期の学びに関わる理論について理解することで、子どもの学びと保育を結びつける（養護及び教育の一体性）。（目標3）</p> <p>第13回：乳幼児期の発達過程と照らし合わせながら、乳幼児の学びの過程と特性について理解する。（目標3）</p> <p>第14回：乳幼児期の学びを支える保育における人との相互的関わりや体験の重要性について理解する。（目標3）</p> <p>第15回：乳幼児の学びを支える保育における環境の意義について理解する。（目標3）</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>授業外学習の課題として提出するレポート・ワークの内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポート・ワークが全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> </ul>
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
テキスト	授業毎に資料、ワークシートを配付する。
参考書・参考資料等	<p>参考書：『幼稚園教育要領・保育所保育指針』 文部科学省・厚生労働省</p> <p>参考資料等：適宜提示する。</p>
担当者からのメッセージ	授業への主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	メール等で連絡をしてアポを取ることにする